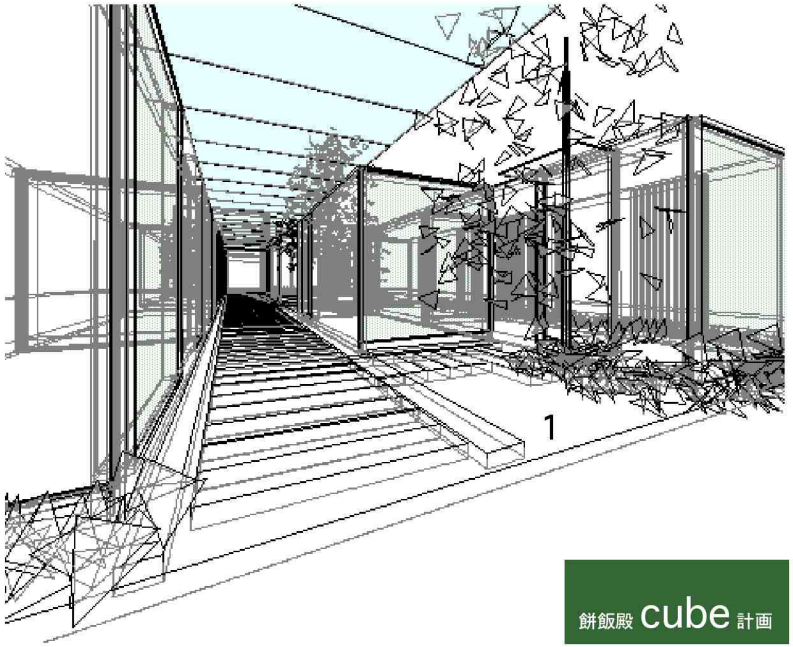
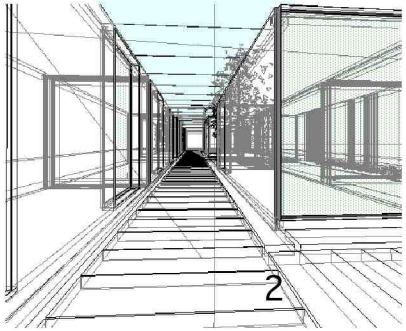
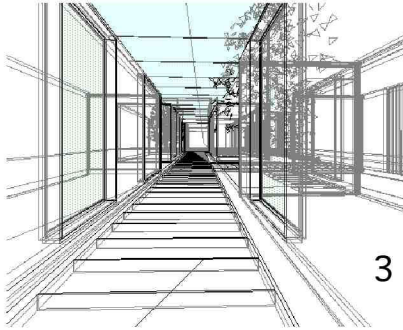


1



2

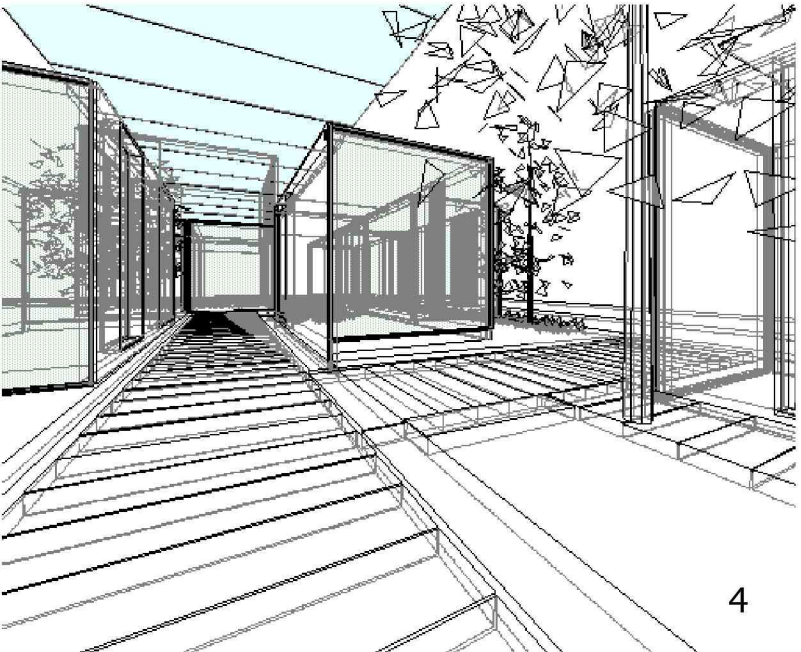


3

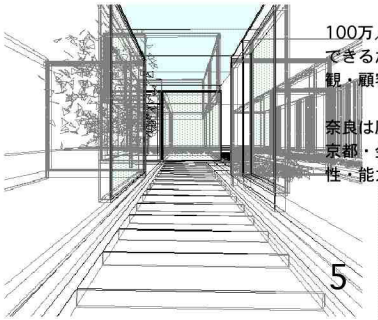
餅飯殿 cube 計画

この計画は「吉野材と漆喰」でできた「【13個の箱】で構成され、路地・坪庭・前庭を形作りながら連続させた空間です。
餅飯殿と吉野の関係から、骨組み、床材は吉野杉を使用します。餅飯の白を和の素材ー漆喰で仕上げます。箱の大きさは外径2450x5200
船舶コンテナー20フィート型の80センチ短い大きさで、3.5坪の木製の箱です。
飲食、喫茶、ブティック、美容室、ギャラリーに使用された実績のある空間で、3.5坪は昨年オープンした奈良町工房の広さと同じで、現在ガラス工芸、型絵染、アジア雑貨、喫茶が入っています。　配置・組み合わせ・個数は自由に設定でき、構造的に独立しているので将来の配置替えにも対応できます。東西軸に並べたすべての箱を南北軸に置換えることも、減らすことも、増やすことも可能です。両妻面はオープンにできる構造のため、複数の箱を連続させて使用することもできます。　路地は幅2メートル、餅飯殿周辺の路地空間として人間的な幅です。アーケードからの連続ゆえ、透明ガラスで全天候型にしてあり。透明のため空や月が、雨の流れも見える。
路地はデッキ材、箱の周辺はレベル調整用の砂利とクマザサの植え込みになっています。

テナントはあくまで個人で年齢を問わない。ガラスや陶器や木彫の工芸、および工芸の延長にある雑貨・衣料物販、喫茶、街角ギャラリー、古書・・商店会が人選して方向を決めればよい。規模と家賃は多くの応募を期待できるはずである。
準防地域のこの場所で木造が可能な規模は2階・500㎡まで。しかも200㎡を越すと福祉のまちづくり条例と内装制限がかかります。建物の規模を想定する場合200㎡が分岐点になります。改装工事の分岐点は100㎡です。



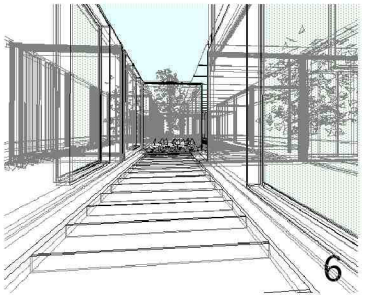
4



5

100万／100坪や10万／10坪でなく、個人レベルで応募できる3.5万／3.5坪の空間を用意して、できるだけ多くの応募の中から人と業種を選んでゆけば良いと考えます。数年ごとに地域・価値観・顧客ニーズに柔軟に対応が可能になります。

奈良は歴史都市だが、文化都市ではないと言われる。文化財はあるが文化が希薄だと言われます。京都・金沢に対比させて言われます。地縁神話が消え、銀行神話が消え、大企業神話が消え、個人の個性・能力が問われる今こそ、餅飯殿が柔軟に世代を超えた【人】の集合に挑む時だと思います。



6

7

1/5
設計主旨
3D パース
DATE 05.05.31

餅飯殿
cube計画

勝村建築設計事務所